



Title	「分かる」につくテイルのアスペクト的機能
Author(s)	劉, 曉娟
Citation	研究論集, 10, 99-112
Issue Date	2010-12-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44603
Type	departmental bulletin paper
File Information	RYU.pdf



「分かる」につくテイルのアスペクト的機能

劉 曉 娟

要 旨

本稿は、「分かる」がもつ特質を明らかにした上で、「分かっている」のモダリティ的機能を考察し、「分かる」の動作性と状態性との関連性を分析するものである。

分析した結果、以下に述べるようなことが明らかになった。

- (1) 「分かる」は状態性と動作性を持つ。
- (2) 「分かる」は人称制限を受けない。
- (3) 「分かる」と共起する「もう、とっくに、既に」は完了性を示しにくくなる。
- (4) 「分かる」はリニューアル的な現在の状態を示すことが可能である。これは「分かる」は「今は／今なら」と共起しやすいことから証明される。
- (5) 「分かる」につくテイルは、結果状態か一時的状態と解釈されるのが一般的である。

1. はじめに

本章では、主に「分かる」に関する次のような問題点について考察する。

「分かる」の動詞的意味特徴を踏まえて、それにつくテイルのアスペクト的機能を明らかにする。これまで、「分かる」は状態動詞或いは瞬間動詞或いは属性動詞などとして取り扱われてきた。しかし、「分かる」は状態性のみを持つとは考えにくい。例えば、次の用例に示されるように、「分かる」の対象はヲ格でもガ格でも示すことができる。理論的に対象をガ格でマークする動詞は状態性を持ち、対象をヲ格でマークする動詞は動作性を持つ（加藤 2006）。

- (1) 北村隆 私も何度かやったことがある。でも、はっきり言って歌舞伎は受けない。題材として歌舞伎を分かる人いないもの。時代の流れだ。

毎日新聞

- (2) 島田さんはその時、「シュートとはこういうことだと分かった。観客席にいた私ごときに打つタイミングが分かるシュートなんてなかなか決まらないんです」。サッカーは予定調和を嫌う。練りに練られた戦術で勝つ試合もあるものの、一瞬のひらめきや偶然が勝敗を分ける試合も多い。

毎日新聞

本稿では、以上の問題について、次のような観点から考察をおこなう。

- ・「分かる」は動作性と状態性の両方の性質を持つ。その使い分けは発話者の意図による。
- ・「分かっている」のテイルは結果状態或いは一時的状態を表すものである。
- ・「分かる」は人称制限（一人称）を受けないが、人称によって「分かっている」の機能が異なっている場合がある。

2. 「分かる」につくテイルのアスペクト的意味特徴

2.1. 目的

「分かる」につくテイルは結果状態を示すものと考えられるが、動詞「分かる」の特徴は単純とは言えない。これは動詞の意味特徴とテイルの意味解釈の関連を考察するのに適切な用例だと考えられる。そこで、本節では「分かる」の動詞的意味特徴を考察することを主たる目的とする。従来、「分かる」は状態動詞或いは瞬間動詞或いは内的状態動詞だと言われてきた。しかし、多くの用例を考察した結果、それらの主張のいずれも「分かる」の一面しか捉えていないと考えられる。本稿では、これらを検討した上で、「分かる」は動作性も状態性も示しうること、また、それは自他動詞の別によるものではなく、発話者の意図、つまり、叙述の重点をどちらにおくかということによることを指摘する。

2.2. 先行研究

2.2.1. 状態動詞説

金田一（1950）では、「知る」「分かる」の相違点を説明し、「分かる」は「—ている」をつけずにそのままで現在の状態を表わす」と指摘し、「分かる」を状態動詞に分類した。その後、久野（1973）では、日本語の動詞を更に一般化し、状態動詞のル形で現在の状態を表すと述べている。これらの学説を踏まえて、西田（2005）では、「分かる」が状態動詞であり、「太郎は日本語が分かる／＊分かっている」と述べている。

状態動詞説の検討

詳細は後述するが、要点を述べておこう。

確かに「分かる」のままで現在の状態を示すことは可能である。しかし、これは「分かる」の本質的な特徴ではなく、「分かる」は状態性を表すと考えにくい用例も見られる。また、日本語母語話者の多くは、「太郎は日本語が分かっている」という用例は適格であることを主張している。理論的には、少なくとも一時的状態性を示すのに「分かっている」を用いることが可能である。

2.2.2. 瞬間動詞説

町田（1989：48）では、「分かる」を瞬間動詞としている。その理由については「分かった」は「しばらく」「長い間」のような継続期間を意味する副詞によって修飾することができないためであると述べている。さらに、「これらの動詞を用いて、発話時点においてそのような知識や理解が存在することを表示するためには、常に「テイル」を伴わなければならない」と主張している。

町田（1989）の瞬間動詞論の検討：

町田（1989）には、「発話時点においてそのような知識や理解が存在することを表示するには、常に「テイル」を伴わなければならない」と述べている。しかし、「分かっている」に発話時の状態性を示す一面があるのは確かであるが、「分かる」も発話時点の状態を表すことが可能である。これについては、次の用例を見られたい。

- (3) 「当時幼く意味が分からなかったが、今は分かる。私の裁判は私だけのものやない。青春を奪われた元軍人軍属、夫を奪われた妻たちみんなのためにある。この闘い、生き抜いて絶対に勝ってみせる」と声を張り上げた。

朝日新聞

- (4) 「つらいときにつらい顔をするのは簡単。でも、そこで笑顔を見せられるのが本当に強い選手です。とても力のいることです。私にはその気持ちが分かる。だから、この笑顔を皆さんに見てもらいたい」

朝日新聞

これらの用例における「分かる」は発話時点という特定時点に存在する状態を表している（これについては、金水（2000）などに指摘されている）。これは、町田（1989）の問題点であると言える。つまり、「分かる」も「分かっている」と同じく発話時点の状態を示しうるのである。しかし、「一つの形式は一つの意味機能を持つ」ということを考えると、この2つの表現の意味

機能が同じだとは考えにくい。では、発話時の状態を表すのに2つの表現が存在するのはなぜであるか。また、それらを使い分ける基準は何であろうか。「分かっている」の特徴を明らかにするにはこのような比較も必要である。この点については、5節で取り扱うことにする。

2.2.3. 内的情態動詞説¹

「分かる」を内的情態動詞とした工藤（1995：89-93）では、次のように述べている。

「内的情態動詞の特殊性は、スル形式における、人称性・ムード性とのからみあいにある。従って、スル——シテイルの対立を、純粋に時間的なものだとするわけには行かなくなるのである。

まず確認しておくべきことは、シテイル形式の方は、外的運動動詞と同様に、〈継続性〉を表し、シテイルであれシテイタであれ、人称性から解放された確認・記述文となることである。

（略）

これに対して、スル（シタ）は、内的状態動詞すべてにおいて、基本的に、1人称に限定される。

まず、スル形式では、はっきりと〈態度表明文〉或いは〈感情・感覚表出文〉となる。

（略）

次に、（略）動詞分類のところで述べた感情動詞、感覚動詞のうちのグループの動詞は、シタ形式で、〈現在における感情・感覚の表出〉を表しうる。

内的情態動詞説の検討

工藤（1995）の分析は「分かっている」にも当てはまるだろうか。また、これで「分かる」「分かっている」の相違点が明確になるかの二点から検討してみよう。その前に、工藤（1995：93）の表を引用して、そこで言及した「分かる」「分かっている」の特徴をまとめておく。

ル：態度表明／感情・感覚表出〈現在〉

テイル／テイタ：（客観的）確認・記述

まず、次の用例(5)～(7)における「分かる」は、人称制限（一人称のみという制限）を受けていない。これは「分かる」に属性を示す特徴があるからだと考えられる。つまり、「脳は脳の情

¹ 心理動詞と分類する仕方もある（三原2004など）。ここでは工藤（1995）と同じ類型にするが、その相違点を無視するわけではない。

報処理の仕組みを分かる」では、「脳の情報処理の仕組みを分かる」ということが「脳」の属性である。属性であるなら人称制限を受けなくともよい。

- (5) 有馬朗人氏 脳は心を理解できるか。

甘利氏 あえて、できると答えたい。脳は脳の情報処理の仕組みを分かる。その上に立つ心を理解することは可能だと思う。

毎日新聞

- (6) マ氏 「お客様は商品の価値や価格、新鮮さを分かる。一つの店舗でお客様が望む物を、より安い価格で提供することができれば、必ずその店に来てくれるはずだ」

朝日新聞

- (7) すぐに囲炉裏で手をあぶると痛くなるから。子どもは、それで母親の暖かさや愛情を分かる。ぜいたくになって、豊かになったいまは、そんな母親はいないし、そうする必要もない。

朝日新聞

さて、「分かっている」はどうであろうか。次の用例を見てみよう。まず、言えるのは「分かっている」は動作継続を表すものではないことである。それから、次の用例における「分かっている」の特徴は「客観的確認・記述」では説明しきれない。

- (8) 新田貞子はまず、「今何時だと思っているんですか？」と質問してきた。

反射的に昭次は時計を見て、「二時半です」と言った。

「分かっているんなら、もうちょっと静かにしてください。非常識な」。

テイルは客観性という非アスペクト的機能をもちうるが、例文(8)を見る限り、それが必ずしも顕著に出ていない。それに、逆に「客観性」のみでテイルの非アスペクト的機能を説明できるなら、次の言語事実を説明できない。例えば、先生と論文について相談する時に、先生の指摘を受け、「分かっている」と言った場合、先生が不快感を覚える可能性がある。「分かっている」が客観性を持つとするなら、不快感が生じるわけではないと考えられる。非アスペクト的機能に関しては後述するが、本論では主にアスペクト的機能について論述する。

2.2.4. 属性動詞説

山岡（2000）はアスペクトの観点からではなく、文の構造と機能との関係の記述という観点から動詞分類を行っているが、そのなかに「分かる」に関して大変面白い指摘がみられる。

山岡（2000：224-231）は、「分かる」を「叙述動詞—属性動詞」に分類している。また、こ

の種の動詞は「もともと状態性を持った無意志動詞である」と特徴付けている。また、「属性動詞はテイルを付加することが可能である。ただし、その場合、〈属性叙述〉文ではなく、〈状態描写〉文となる点が特徴である」ことを指摘している。

属性動詞説の検討

まず、「分かる」には確かに属性を表す一面がある。これについては、2.2.3. の内的情態動詞説でも言及した。しかし、「分かる」には属性を表さない用例もしばしば見られる。例えば、2.4.1. の用例「一見不名誉な記録でも、棋士として一つの勲章でもあることが分かる」の「分かる」は属性を表すとは考えにくい。このような言語事実を踏まえて、本稿では、「分かる」が属性動詞ではなく、「属性を表す場合がある」と指摘しておきたい。

2.2.5. 自他動詞説

山西・駒走 (2004) では、「わかる」がヲ格と共起する用例を中心にその実態を調査し、「わかる」のこの用法は、特に若者の間で承認されていると述べている。また、このようなヲ格と共起する「わかる」は、他動詞の性質を持ち、他動詞だと指摘する辞書などもあると例を挙げて指摘している。さらに、日本語教育の観点から、この問題の重要性を強調している。

自他動詞説の検討

山西・駒走 (2004) の主張通りに、ヲ格と共起する「分かる」は他動詞だと考えてもよさそうである。しかし、須賀 (1995: 133) で指摘されているように、「「x が y を他動詞」の場合は、x は y に対する変化の与え手であり、他動詞は y に変化を及ぼす意味を持つ。「x が y を自動詞」の場合、x の行為が y においてなされるという点で、x の行為と y とは関係を持つが、自動詞は y に変化を及ぼさず、x は y に対する変化の与え手ではない」。この基準に合わせて考えると、「分かる」は自動詞だと考えたほうがより妥当だと思われる。

2.3. 2.2. のまとめ

以上をまとめておこう。

瞬間動詞説或いは状態動詞説のいずれも「分かる」の意味特徴の一部しか捉えていない。しかし、工藤 (1995) の分類では状態動詞と瞬間動詞とは両立不可能ではないが、それを詳細に言及していない。また、本稿はヲ格で対象をマークする場合の「分かる」は他動性をもつのではなく、対象を強調しようという叙述の意図性によると考える立場である。

次節からこの立場に立って、ガ格とヲ格に分けて「分かる」の特徴を考察してみる。

2.4. 状態性の「分かる」とそれにつくテイル

ここでは、主にガ格と共起する「分かる」の用例を考察し、「分かる」は現在の状態を示すことができるということを主張し、裏づけをする。同時に、それにつくテイルの意味特徴を考えてみる。

2.4.1. 用例考察

まず、次の用例を見てみよう。これらの用例においては、「分かる」の主体は必ずしも「私」であるとは限らないことは言うまでもない。しかし、現在の状態をアクチュアルに示せるかは不明である。

- (9) さらに、加藤九段の勝率を他の棋士と比較し、1000 敗までにかかった期間が短かったという別のデータも示す。一見不名誉な記録でも、棋士として一つの勲章でもあることが分かる。

毎日新聞

- (10) と、いうことを日本国中の小学 4 年生が書ければいいわけですね。中身が分かる。

朝日新聞

- (11) <3>「園児も分かる、感じる!!」 28 年、毎朝続く新聞読み聞かせ」(川野晴美, 大崎智子・芦北町芦北保育園保育士)

朝日新聞

例文(9), (10)での「分かる」の主体は不定であるが、例文(11)での「分かる」の主体は三人称の「園児」である。これらのいずれも「私」だとは考えにくい。この点から、「分かる」は人称制限を受けるとはいいにくい。この点については、2.5. のヲ格の部分でさらに考察する。一方、現在の状態をアクチュアルに示せるかという点についてはこれらの用例では証明できない。2.4.2. では「今は」と共起する「分かる」を見てみる。

2.4.2. 「今は」と共起する「分かる」

西田 (2005) では、奥田 (1978) の「ル形は発話時と同時に進行するアクチュアルな現在を表すことができない」という主張を支持している。しかし、次の用例での「分かる」は「今は」などと共起している。このような用例は町田 (1989) での「分かる」は現在の状態を表せない主張への反証となる。

- (12) 机の上に音楽プレーヤーのスピーカーを並べていた男子生徒に注意すると、「誰にも迷惑かけてへん」と開き直られた。20 代の自分なら、カッとなって怒鳴りつけただろう。でも

今は分かる。いくら感情をぶつけても他人はコントロールできない。自分の子どもでさえ、思い通りにならないのだから。「周りの子のやる気が下がるやろ。間接的に迷惑をかけてんねんで」。自分なりに言葉を尽くした。

(13) この3月で、働いて6年になる。子どもより先に折れてしまう親を見て、「親も子ども少し辛抱して、親離れ、子離れできるかが自立への一步につながる」と話す。中1の夏に恨んだ父親の、決断の重さが今は分かる。

(14) 保険会社の福岡支部長で、営業や出張で、ほとんど家にいませんでした。ある時「日記を書け」と言われました。ときどき読んでいたみたい。子どものことを知りたかったのだと今は分かるけど、そんな気も知らずにオヤジの悪口を書いたりしていたら、だんだん読まなくなっちゃった。

「今は」というのは、文脈によってその期間が長くても短くてもよいが、いずれも発話時を含んでいると考えられる。つまり、「今は」と結びつく動詞によって示された状態は、アクチュアルな現在の状態を示すことが出来る。例文(12)では、「今の私」と「20代の私」との比較対照を示している。つまり、20代の時は「いくら感情をぶつけても他人はコントロールできない」ということが分からなかったが、「今の私」はそれを理解していることを示している。この場合の「今の私」に「発話時における私」も含まれていることは論を俟たない。ほかの2例も同じく考えられる。つまり、例文(13)では、「中1の夏の私」が「父親の決断」の重さが分からなかったのに対して、「今の私」にはそれが分かったことを示している。例文(14)では、「以前の私」が「オヤジが子どものことを知りたかった」ことを知らないが、「今の私」にはそれが分かっていると述べている。

このように、「分かる」は人称制限を受けているとは考えにくいこと、また、「分かる」はアクチュアルな現在の状態を示すことが可能だと思われること、という2点が以上で示された。特に後者の考察で得た結論は、奥田(1978)、工藤(1995:93)、西田(2005)などと異なった考察結果となっている。

2.4.3. 状態性の「分かる」につくテイル

状態性の「分かる」につくテイルとは、以下のような用例における「分かっている」をさす。また、この場合の「分かる」と「分かっている」の相違点は、主に常に発話時の状態を示すかという点にある。つまり、「分かる」は状態性を表すが、「現在の状態性を示す」は「分かる」の有標の解釈であり、「分かる」の本質的な特徴ではない。その一方、「分かる」にテイルをつけると、常に「発話時における状態」であることを示しうる。

(15) 同市の調査では、熊本市に住んでいた長女(既に死亡)の息子で、渡辺さんの孫に当た

る男性（57）が、渡辺さんと同居している五女（70）から「10 年ほど前、（渡辺さんが）亡くなったとの手紙をもらった」と証言していることが分かっている。渡辺さんには 8 人の子供があつたが、孫は「（五女ら）おじ、おばに会ったことがない」と話しているという。

毎日新聞

- (16) これが清水の J1 ホーム通算 500 得点目（5 チーム目）。序盤はセ大阪の動きに手を焼く場面もあつたが、筑波大時代から培った 1 学年後輩との連係で突破口を開いた兵働は「（藤本とは）互いに感覚が分かっている。2 人でうまく崩せた」と笑みを浮かべた。

毎日新聞

- (17) タンカーの周辺では、衝撃の約 3 分前まで、前方で小型船が頻繁に方向を変えるなど不審な動きを取っていたことが分かっている。船体の損傷状況や船員の証言、各種の記録などから、タンカーは魚雷などが直接衝突したのではなく、船体の近くの海中で大規模な爆発が起きて船体が損傷したとみられ、国交省と事故原因調査委員会は、小型船による攻撃の可能性を調べている。

朝日新聞

今回は主に新聞のデータベースで用例を検索した。実例は見つかっていないが、理論上では、「～が分かっている」は、時間副詞などによってその時の出来事に注目させる場合があると考えられる。しかし、このような用例はまだ見つかっていない。つまり、収集してきた用例における「～が分かっている」のテイルは、結果状態を表すものである。今後はさらにほかのデータベース等から用例を収集してみたい。

2.5. 動作性の「分かる」

本稿においては、須賀（1995）などと同じく「分かる」のようなガ格ともヲ格とも共起する動詞を自他動詞の角度からは分析しないということは、既に本稿の先行研究の部分で述べたとおりである。つまり、ヲ格と共起する「分かる」は、発話者の意図が「分かる」の対象を強調したい場合に限るという立場である。また、この場合の「分かる」は動作性を持つと考えられる。これは「徐々に」と共起しうることから裏付けられる。

2.5.1. 用例考察

詳しい議論に入る前に、動作性の「分かる」を属性とする可能性についても考えておく必要がある。山岡（2000：206）では、属性動詞の定義について、「この動詞群のル形は述語として、事物や人物の恒常的属性を属性形容詞さながらに述べ立て、〈属性叙述〉文を作るので、本研究ではこれを属性動詞と呼ぶことにする」と定義づけている。また、この類の動詞は「ル形では、事象が生起したときに（略「耳そうじ」を行うとき）に発揮されるような属性が、恒常的に潜

在している，という意味で，このアスペクトの意味を「潜在相」と考えている。テイル形では，その属性が事象の生起とともに，事実として発揮されている状態を示すので，そのアスペクトの意味を「実現相」とする」と述べている。

しかし，次のように，これらの「分かる」は属性を表す動詞だと言い難い。

- (18) 最近，テレビ番組で，ある生徒がいじめ自殺が問題となった学校の校長について「生徒は校長の顔すらよく知らないのに，校長が生徒のことを分かるのか」などと発言していたが，もっともだと思う。
- (19) 「読み，書き，そろばん」。ちゃんと読む，書く，聞く，計算をする。そして心がいかに大事なものを分かる。教育はそれを基にすべきだと思っています。

朝日新聞

- (20) 「実家は全壊，よく知っている近所のおじさんらが亡くなった。生まれてくる子には人に優しくできる子に育ててほしいと願った」とつぶつている。西宮市で被災した女性は「今でも地震の映像を見ると，ふるえと涙が止まらなくなる。(この手紙を読んで)子どもたちが命や助け合う気持ちの大切さを分かるようになればいい」と書いた。

朝日新聞

- (21) 国会議員にもしっかりと現場を歩き，国民の痛みを分かる議員になってもらいたい。私たちは，地元に戻ってきた国会議員に大きな会場で演説してもらうことが多いが，国民とのふれあいが少ない。保護者の手紙の中には，神戸市内での被災ときに妊娠していた女性のものもある。

朝日新聞

このような動作性の「分かる」の用例においては，「分かる」は主体がヲ格にマークされている対象を理解しているかを表すものであり，属性を示すものだとは考えにくい。また，この場合の「分かる」は状態性をもつとはいいいがたく，動作性を持つと思われる。これは，2.5.2. で論じている「～を分かる」が「徐々に」と共起できる用例から証明される。

2.5.2. 「徐々に」と共起する「分かる」

以下の用例における「徐々に」と共起する用例は，「分かるようになった」のようなものも見られる（例文(24)）が，「分かる」が単独で用いられる用例も見られる。

- (22) 発掘された遺跡は何を語っているのだろう。確かに，大昔の様子は調べていけば徐々に分かる。しかし，それだけなのか。遺跡に映し出される日本や世界の現在の姿を探ってみたい。【伊藤和史】＝毎月1回掲載します。

朝日新聞

- (23) 同事件で池永さんは八百長行為を否定。元西鉄 OB ら支援者が再三、処分解除を求めてきたが、認められなかった。池永さんは 16 日、「感激と言うのか、自分の気持ちをうまく言い表すことが出来ないけれど、もちろんうれしいです。これから時間がたつとともに徐々に分かるのだと思う。(日本プロ野球組織には)心よりお礼申し上げます。申請はコミッショナー（事務局）と、いつどういう形で申請すればよいのか相談して、それから決めます」と話した。

朝日新聞

- (24) やがて、それまで聞こえなかった楽器の音が区別できるようになった。楽譜も追えるようになり、最適なマイクの設置場所や数が徐々に分かるようになった。そうやって毎年、「無我夢中」で収録を重ねた。

朝日新聞

- (25) 「大量殺りく」「血が河のように流れる」という西側の報道は事実と反する。簡単には皆さんを説得できないだろうが、事実は徐々に分かる。

朝日新聞

「徐々に」は「ゆっくりと進行するさま。少しずつ変化するさま。だんだん」を表す（北原：2002）。このような副詞が動作性を持たない動詞と共起するには、「動詞＋ようになってくる」など変化を表す構文成分を用いる必要がある。例えば、「徐々に出来るようになってきた」などがそうである。一方、動作性を持つ動詞のル形とも共起する。例えば、「徐々に進める」などがあげられる。「分かる」が単独で「徐々に」と共起する用例から、このような「分かる」は動作性を持つと考えられる。今後はさらに副詞の性質の面から考察を進めることも必要であろう。

2.6. 「もう」と結びつく「分かっている」

以上、動作性を持つ「分かる」と状態性を持つ「分かる」についてそれぞれ考察してきた。その上で、「分かる」につくテイルが結果状態或いは一時的状態を表す性質を持つという考察結果も述べた。ここでは、「分かっている」と共起する「もう」が完了を示すことが出来なくなることを指摘する。

- (26) 中学一年の時から長距離種目に取り組む二年生は、もう分かっているのだろう。取材から解放されると、「まだ（リンクに）乗りますから」と言ってスケート靴を手にとった。

北海道新聞

- (27) 東京湾を望む天王洲の JAL 本社で、かつて部下だった新任の執行役員と向かい合ったのは、それからまもなくのことだ。用件を切り出さない新任執行役員に「何のための面談な

のか、もう分かっているよ」と促した。用意していた早期退職の申込書を胸ポケットから出し、執行役員の目の前においた。

朝日新聞

- (28) 「どうやってエネルギーを使えばいいか、もう分かっている」。移籍について宮本はこうも話した。環境を変えるには、この上ない刺激と引き換えに、勇気も労力も必要になる。新たなステージで戦う2人に注目したい。

朝日新聞

- (29) 講習は講師の説明から始まった。「またか」や「それはもう分かっているよ」という気持ちかわき、「眠い」「早く帰りたい」といった空気が講義室に充満していくのが目で確認できそうなほどである。しかし、そんな中、私が思ったのは「こんな空気の中で教えるのは、しんどいだろうな」ということだった。

毎日新聞

- (30) 一晩考えて、気持ちだけは伝えることに決めた。余計なことは入れず、気持ちすらもシンプルにメールの文章に込めた。顔文字も絵文字もない文章ができ上がった。とっつきにくいと思ったけれど、この方が気持ちが伝わるし、返事は送る前からもう分かっている。でも送信する前に少し相手のことを考えた。どう考えたって迷惑だ……。

毎日新聞

これらの用例において、「分かっている」は「もう」と共起している。そのテイルは結果状態と解釈されやすく、経験・記録を示すとは考えにくい。これは定義の問題でもあるが、本稿では結果状態と経験・記録を次のように定義している。

経験・記録とは、その出来事自体のみに注目し、その開始限界或いは終了限界あるいは継続段階のみに注目しないテイルの用法である。図で示すと基本的に図1のようになる。また、本稿の経験・記録という用法の出発点は加藤（2010）に提起された外的アスペクトである。また、次の結果状態も加藤（2010）の内的アスペクトを参照したものである。ここでは詳しく検討する余裕はないが、詳細は加藤（2010）を参照されたい。

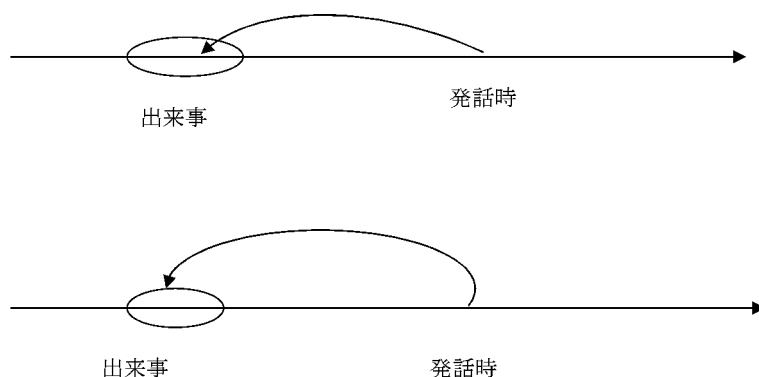


図 1. 経験・記録のテイル

一方，結果状態とは，結果の開始限界を過ぎた後の状態に注目するテイルの用法である。また，開始限界が示されないのが普通であるが，開始限界が示される場合もある。図で示すと図 2 のようになる。

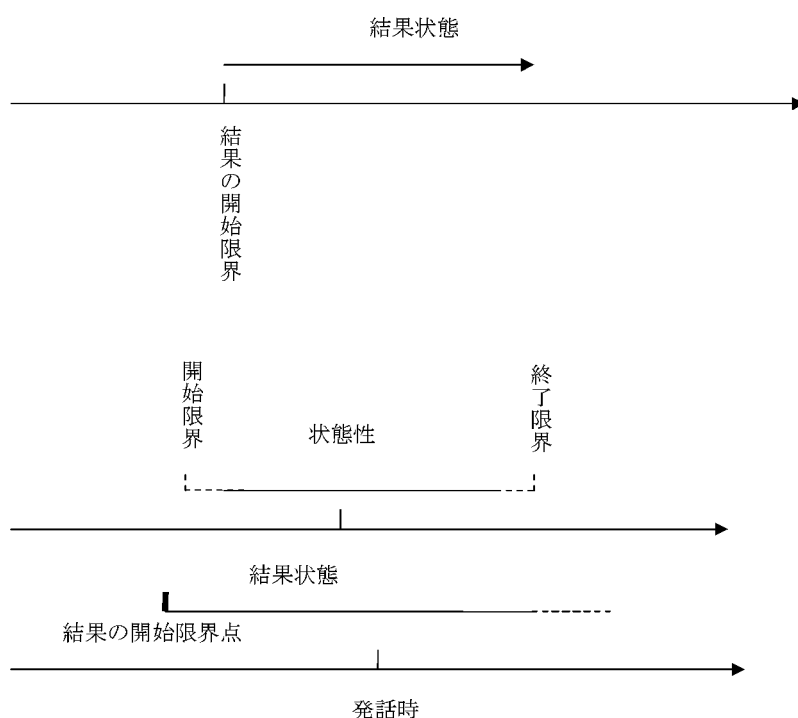


図 2. 結果状態のテイル

また，上で言及したように，本稿での経験・記録と結果状態は，加藤（2009）の外的アスペクトと内的アスペクトに近いが，異なっている部分もあり，さらに詳細に述べている部分もあ

る。その詳述はほかの機会に譲る。また、このように分類すると、工藤（1995）で指摘した動作パーフェクト（本稿の経験・記録）と状態パーフェクト（本稿の結果状態）が区分しにくい問題点がある程度解決できると思われる。

3. おわりに

以上に述べてきたように、「分かる」は動作性と状態性の双方の性質を持つ。また、それらの使い分けは自他動詞の相違等によるのではなく、発話者の意図によるものである。このような点から、「分かる」と結びつくヲ格の場合は、その対象は擬似動作対象であると言える。しかしヲ格と結びつく場合の「分かる」は純粋な変化を示す動詞ではない。それにも関わらずそれにつくテイルが結果状態を表すものだと言える。

このように、本章で考察した「分かる」の動詞的意味特徴は複雑である。しかし、それにつくテイルは、あくまでも「分からない→分かる」という変化が終了限界を過ぎた後の段階を示す、つまり結果状態を示す。この考察結果は、本論で提起した完成性——限界性という区分基準の有効性を証明する結果となっている。もちろん、「分かっている」の意味特徴は結果状態というアスペクト的性質のみで説明できるものではない。これは「分かっている」のテイルのモダリティの機能からさらに考察する必要がある。これについて機会を改めて論じる。

（りゅう ぎょうけん・言語文学専攻）

参考文献

- 加藤重広（2010）「内的アスペクトと外的アスペクト」『言語研究の諸相（門脇誠一教授停年記念論文集）』北海道大学出版会，pp.44-73
- 金水敏（2000）「時の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子編『日本語文法2 時・否定と取り立て』岩波書店
- 金田一春彦（1950）「動詞四分類」金田一春彦編（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 に再録
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 久野暲（1973）『日本文法研究』大修館
- 須賀一好（1995）「自他の違い——自動詞と目的語、そして自他の分類——」須賀一好・早津恵美子（編）『動詞の自他』ひつじ書房，pp.122-136
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 西田光一（2005）「恒常の状態を表す日本語動詞の語用論的分析」日本語語用論学会編『語用論研究』
- 町田健（1989）『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』くろしお出版
- 山西正子・駒走昭二（2004）動詞「わかる」と格助詞——実態と規範意識、『目白大学人文学部紀要』
- 11
- 北原保雄編（2003）『明鏡国語辞典』大修館書店